

欧州視察報告＜４＞

視 察 項 目	リエカ市内視察
視 察 日 時	2009年2月4日（水） 午前9時00分～11時00分
視 察 先 名	川崎市友好の噴水・生鮮市場など市内
説 明 者	タヤナ・マヴリナツ女史
担 当	佐々木由美子

【リエカ市内視察】

あいにくの雨のなか、市内視察となりました。リエカ市の語源は、クロアチア語で「川」。市内の東にはリエチナ川が流れ、地形が川崎市と似ています。また湧き水など綺麗な水も豊富にあるため製紙工場や造船工場などがあり、工業港として栄えていること等共通点が多く、姉妹都市になったとのこと。市内には川崎市が寄贈した噴水が今も綺麗に整備されていました。



寄贈した噴水



リエカ港

リエカ港は、アドリア海の付け根に位置し、ヨーロッパでも最大級の港として栄え、陸路の要にもなっており、ここからヨーロッパ各地へ荷物が運ぶことが可能。

今後、クロアチアがEUに加盟できたら、ヨーロッパの主要な港になることが出来る。との見方もあるようです。

昔から港町として栄えたため、以前はリエカ市内に100を超す大使館もあり、多くの民族のいる町で、クロアチア語、イタリア語、ドイツ語などが市内では使われていたそうです。今も10を越す少数民族が住み、社会と共存しているとのこと、多文化共生のまちづくりについて、どのような施策があるのかなど、詳細なことを聞くことが出来ず、残念ながら次回への課題となりました。

リエカの町の歴史は古く、ローマ帝国の時代の遺跡なども残っており、聖ニコライ教会脇では、ローマ遺跡の発掘作業を今も行っていました。その後、ローマ・オーストリア・ハンガリー・フランスなどの影響をうける豊かな歴史を持つ町は、15世紀からオーストリア、ハプスブルグ家の支配下となり、今もオーストリア時代の雰囲気を残す町並みです。2007年にはミュンヘン・ザクセン・シムフォニーホールで「弦楽四重奏+ピアノ」を披露された団員の所属するリエカ国立歌劇場も、120年前オーストリア人によってデザインされた建築物であり、プラハ・ザグレブ・ウィーンの歌劇場と似たスタイルになっています。

因みに、リエカのシンボルとなっている二つ頭の鷲は、ハプスブルグ家の紋章です。町の至るところに、歴史を感じさせるものが残っていました。

最後に港町の台所は、とても賑わっていました。日本でも見られる多くの種類の野菜は露天で売られ、魚市場は屋根が木造の古い建物の中がありました。



リエカ国立歌劇場

《リエカ 港町の台所》



露天で売られている青果類



屋内で売られている生鮮食品